

アディティブマニュファクチュアリングに関する国際セミナー

国際共創促進委員会 委員 菅哲男
接合科学研究所 特任教授

令和5年5月30日(火)に、MTEC(タイ国立金属材料技術研究センター)主催のAM(アディティブマニュファクチュアリング)に関する国際セミナー(Industry Trends and Outlook for Additive Manufacturing Technology)が、タイ(バンコク、Mercure Sukhumbit 24 ホテル)で開催されました。約60名の参加があり活発な議論もなされ、成功裏に終了しました。

KMUTT(モンクット王トンプリ工科大学)のKirtikara 副学長による開会挨拶の後に、6件のAMに関する最新技術の講演が行われました。NCSU(ノースカロライナ州立大学)のHarrysson教授からは、米国でのAM動向と共に「EB based AMの医療への適用」についての講演がありました。阪大からは塚本教授と佐藤准教授の講演があり、塚本教授からは銅のLaser based AMへの「青色半導体レーザ適用の優位性」について、佐藤准教授からは「SLM積層造形のスパッタ低減」について報告がありました。その他、KMUTTのPromoppatum 助教、MTECのDr.Chayasombat

Dr.Suwanpreecha からは、金属積層造形物の材料特性や各種応用に関する講演もありました。

終わりには、「AMの産業動向と展望」と題してのパネルディスカッション(パネリスト: Harrysson 教授、塚本教授ら4人、司会: MTECのDr.Srisawadi)が行われ、AMの将来の社会実装の予想も討議されました。

なお、令和3年11月からの2年間において、阪大、MTEC、KMUTT、NCSUの4者間のマルチラテラル国際共同研究(テーマ: 金属基複合材料のSLM積層造形研究)を実施中ですが、今回のセミナーはその一環の活動となります。タイ政府の助成金(PMU-B)を活用しています。セミナーでは、この助成金の説明もありました。

MTECとは、これまで3回のワークショップを開催するなどして交流を深め、2015年からはレーザ溶接やAMの共同研究を鋭意推進しています。この5年間で9報の国際共著学術論文がアウトプットされており、成果は着実に出ています。今後は、更に連携が深化することが期待されます。



国際セミナー会場



Harrysson 教授 (NCSU) [講演]



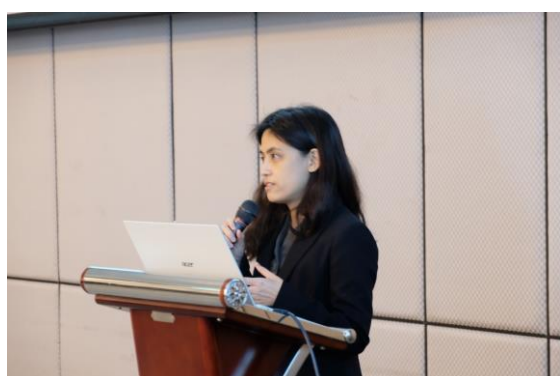
塚本教授 (大阪大学) [講演]



佐藤准教授 (大阪大学) [講演]



Promopattum 助教 (KMUTT) [講演]



Dr.Chayasombat (MTEC) [講演]



Dr.Srisawadi (MTEC) [司会]